

農林水産大臣賞

中部環境保全活動の会（兵庫県宝塚市）



〈たからづか西谷太ねぎ〉



〈西谷ふれあいあそび〉



〈ケトロンまつり（宝山寺にて8月開催）〉

【概要】

（１）むらづくりの動機・背景

中部地区は、行政の総合窓口である西谷サービスセンターを始め、診療所、駐在所、郵便局、ＪＡ、小中学校等が集約されており、既に「小さな拠点」が形成された宝塚市北部の西谷地域での交流・活動の中心となっている。当地区は農業者よりも非農業者が多く、地域活動の組織としては、中部自治会、中部農会、中部婦人会、中部老人会、中部子ども会、中部財産管理会などの各種団体があり、住民はそれぞれの立場から各団体のいずれかに参画し、地域活動を行っていたことから、農業者と非農業者が関わる機会は余りなかった。一方で関係農家の高齢化等から、農用地、農業用水路の施設管理等が困難となり、集落機能の維持に支障を来していた。

このような課題に対応するため、平成17年に完成したほ場整備区域で、大型農機具の導入など効率的な農業を実践し、西谷夢市場（農産物直売所）の設置や平成19年度に多面的機能支払交付金（旧農地・水保全管理支払交付金）への取組を契機に「中部環境保全活動の会」を発足させ、農村環境を守るための活動をベースにしつつ、農業者と非農業者及び各種団体が連携する中で、都市住民との交流を通じたむらづくりを実施している。

（２）むらづくりの内容

中部地区では、中部環境保全活動の会の共同活動によって、農業者と非農業者が一体となって地域内の農地を保全し、農業用水路の補修等を直営施工するなど、基盤整備された農地で水稻を中心に、特産品である「たからづか西谷太ねぎ」や「黒大豆枝豆」が生産されている。

中部環境保全活動の会のメンバーである新規就農者の野菜農家は、宝塚市南部の市街地から移住し、西谷夢市場での販売や小中学校の給食への食材提供をすることと併せて、地産地消の出前講座を行うなど、食育を実践している。

また、隣接集落の西部地区、長谷地区などとの共同主催による「西谷ふれあい遊び」の環境体験学習の開催や共同施設の花壇管理・清掃活動を地域内の各団体と連携し、地元住民とともに実施することにより地域コミュニティの醸成に繋がっている。

これらの食育や地域住民との交流活動は、子供たちが地域を知り、愛着を持つ絶好の機会となっており、この地域で300年継続されている「ケトロンまつり」において、幼児から中学生の^{ぎょうにん}行人^{*}が引き継がれ、伝統行事の維持に寄与している。

中部環境保全活動の会によるむらづくりの取組は、今後とも交流人口の増加を基軸としつつ、更なる活動の展開が期待できるものである。

※ 行人を務めると「音頭」になるまで9年間、さらにその後は、指導者として後進の育成にさらに9年間携わることになっている。